

地域のお役にたつために



民生委員・児童委員
米川 容子

たずねてみたら

Q インタビューに応じて頂いた、米川容子さんは、令和元年12月になられた旧陣屋一・二区・小人町担当の民生委員・児童委員さんです。

Q 活動の内容を教えてください。
A 主に75歳以上の一人暮らしの高齢者を中心に見守りをしています。

Q どんなことに心がけていますか。
A 一人一人の現在の状況を聞いて何か困っている事が無いか、話し相手になれるように心がけています。

Q 活動のご苦労はありますか。
A 現在、コロナ禍で今まで通りの活動とは違っていることに戸惑っています。

Q 訪問して、こうして話を聞いてもらえることが嬉しいと言われた時です。

Q 今後の抱負を聞かせてください。
A 地域のみなさんの身近な存在になりたいと思います。まだまだ、知識不足なことが多いですが、気軽に声を掛けてください。

(寄贈・寄付関係)
宍戸支部に、未使用はがき48枚寄贈 大高たか子様
県立中央病院へ、3万円寄付(エール募金) 宍戸支部

笠間市社協 宍戸支部だより

第129号

令和3年6月17日発行

発行 笠間市社協宍戸支部
雨谷 高市
編集 宍戸支部広報委員会
印刷 大塩企画

—福祉標語入選作品から—
かさえの手 そのやさしさを 福祉にいかそう



見守り活動：宍戸駅

まちの声・むらの声



道路里親宍戸会長
伊東 勝男

宍戸塾が三月で解散です。道路里親だけは、何としても続けたいという思いから賛同者を募ったところ十五名の賛同が得られました。そして道路里親宍戸を立ち上げ県から認定していただきました。三月二十二日には、山吹の跡地に、彼岸花と、水仙、夏水仙の球根を植え付けました。宍戸環境保全会の協力をいただき二十名と多数の参加をいただきました。八十歳を超えた方が三名もいて若い方顔負けの大活躍でした。なぜ年老いてもそんなに元気なのか、思い当たるのは、皆のために働くことが幸福感を高めているのではと考えています。宍戸で一番素晴らしいそしてインターからの玄関でもある道路を皆で花いっぱいとし幸福感あふれる地域としませんか。私の今の願いです。

(お知らせ)
表紙の、宍戸学区の風景や催しの写真・絵画及び記事の掲載希望を随時受け付けております。
また宍戸駅前と社協玄関前のコミュニティボードが今年度より宍戸塾から宍戸支部の管理・運営へと移管されました。

大古山大杉神社探訪 (烏天狗像)

わが町発見

大杉神社は大古山の八幡神社の右手に鎮座する一間四方の小祠です。八幡神社の「大絵馬」は有名ですが、大杉神社の祭神「白狐にまたがった烏天狗像」を知る人はあまり居ません。大杉神社は、今のコロナと同じように、当時恐れられていた流行り病である疱瘡(ほうそう) 除けの神さまとしても広く信仰されていました。今回は、神社に詳しい地域の方にお伺いいたしました。

(インタビューから) 天狗像のある祠は樹齢約四百年のご神木を伐採した時の収入で昭和末期に建て替えました。戦前までは、大杉神社のお祭りが行われ「大杉囃し」の太鼓に合わせて「ホイホイ」と人々が踊ったそうです。リズムは隣接集落間で違い、集まった子供たちは甘酒を頂いたそうです。その様子を懐かしそうに話してくださいました。

※この「天狗様」はコロナ禍の救いの妖怪「アマビエ」と同じ疫病除けと、火防の神でもあります。



像の安置されている厨子背面には、「文化六己巳(つちのとみ)十二月吉日(二八〇年) 矢野下村大仏師千葉帯刀公胤(ちばたてわききみたね)・大古山大工嶋田喜左衛門・願主嶋田四郎兵衛」と墨書されている。

編集委員 安達正男 小川福子
羽生 力 中塚久美子



春はあけぼの？

(支部長あいさつ)
令和三年の春は、そうなるはずでした。コロナからの束縛が解消の方向に向かい、日の出前の美しい朝(新年度)を迎えることができたと希望していました。しかし、現実を見てのとおりです。コロナウイルスは弱体化するどころか、さらに強力なウイルスへと変異し、社会不安を拡大しています。もうコロナ以前の生活への回帰はありえないのかとさえ思われる今日この頃です。

アフターコロナという言葉が聞かれますが、人間社会はこの疫病を契機として、大きく変化していくことになるのでしょうか。

二年度に引き続き、代議員会を中止とさせていたいただきました。他の事業についても、厳しい選択を迫られそうです。まさに、支部社協の存在自体が危ぶまれているという認識を持たなければなりません。そして、この危機を乗り越えるためには、社協の事業全体の見直しが必要であります。

宍戸地区に根づいた事業を展開していたまちづくり宍戸塾が解散しました。宍戸の歴史的価値を見出し、この地域に住む皆さんに誇りを与えた功績は大きいものがあります。この財産を守りぬくためにも、宍戸塾が進めてきた精神を、その一部だけでも引き継いでいくことも社協の仕事かなと感じています。これまで宍戸塾を支えてきた皆さんお力をお貸しください。

今年度、新たな支部社協の事業として、災害対策費を盛り込みました。ほんの少ない予算ですが、計画的に缶詰等の備蓄を行い、災害時に役に立ちたいと考えております。また、バザーについても、どのようにすれば実施が可能かを検討していきます。宍戸塾所有の掲示板も引き継ぎました。地域全体でご活用下さい。広報誌もより地域性を重視した話題を掲載していきます。配食活動も利用者の皆さんにさらに喜ばれるものとなるよう頑張ります。最後に、本広報誌には三年度の事業計画等を掲載しています。社協活動がさらに地域に密着したものとなるため、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

